

くまもと

382号

日本郵趣協会
熊本支部会報
2023.10

占領軍にて検閲された郵便物

内野 実

1948.11.29 切手趣味週間「見返り美人」



1ページをご覧ください。詳しくは存じませんが、昭和23年当時静岡県にお住まいの『郵趣研究室』という郵趣団体の主宰者、後に足立郵便切手会を立ち上げた中川長一氏宛てのFDCです。

彼宛ての昭和23年より26年郵便物は、数多く残されており前回のジャパンスタンプオークションにも多くの出品がありました。これは、その中の1品です。

昭和20年8月14日ポツダム宣言を受諾し、翌15日終戦となりました。そして、アメリカ軍を中心とした連合軍の進駐により、日本は占領軍の支配下に置かれることになりました。

その期間は、昭和20年の東京湾上の戦艦ミズーリ号での降伏文書調印式より、昭和26年、サンフランシスコ対日平和条約調印式までの6年間とされている。

郵便物の検閲は、日本を占領下に置いた連合軍総司令部(GHQ)により、昭和20年10月1日開始されました。検閲を担当したのは、総司令部の幕僚第2局に所属する民間検閲部(Civil Censorship Detachment=C.C.D)である。

機構は、日本各地に3つの地方検閲部、6ヶ所の分局からなるが、実際に検閲を行ったのは、東京地方検閲部・大阪地方検閲部・福岡地方検閲部・名古屋分局の4ヶ所であった。

検閲された郵便物には、金魚鉢に似た輪郭形成で円の中に「POST CENSOR」郵便検閲官の頭文字「P」と「C」を重ねた検閲印が押印された。

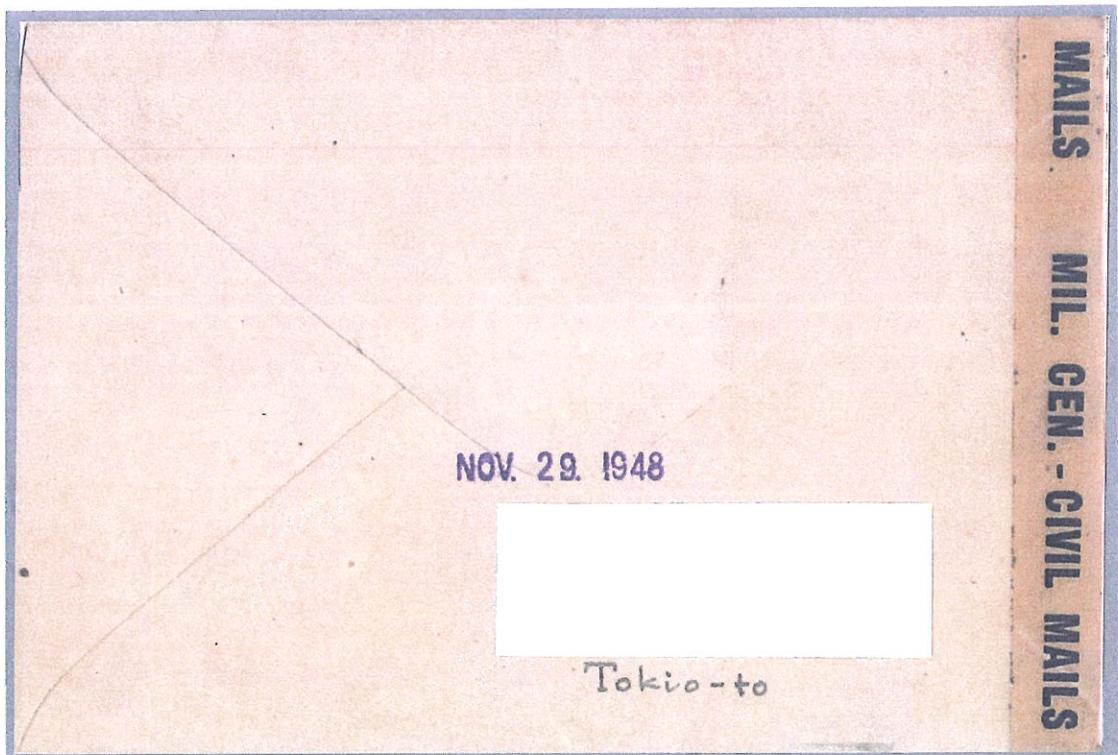
その上には、「C.C.D-」と表示されるが、ーの部分的に「J」とある時は、日本人の検閲官が担当者である事を示しています。続く番号は、検閲官の個人情報を示すものです。

検閲印の押印向きと日付の書き方によって、検閲地の特定することができます。



手紙を検閲した時に、開封部分はセロハンテープにて改めて封印・補修されたが、2種類の物が確認されています。

1ページのカバーの裏面のコピーをご覧ください。



U. S. ARMY EXAMINER とあるのは、米軍陸軍検察官により開封された郵便物

MIL. CEN. -CIVIL MAIIS とあるのは、民間郵便軍事検閲官により開封された郵便物

と言われており、検察官にも2通りあったと考えられるが、実際のところ米軍陸軍検察官といわれるのは、戦時中に米国陸軍の検閲官が軍事郵便を検閲した際の残りを再利用したものといわれ、昭和22年以降はほとんどみられない。

私自身が知識もコレクションも未熟です。今後、機会があれば何か新しい報告が出来ればと思います。